



No.33 2007.06

土木史フォーラム

Newsletter of Committee on Historical Studies in Civil Engineering
Japan Society of Civil Engineers

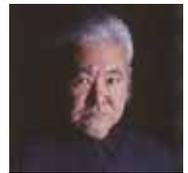
目次

フォーラム	土木遺産と写真	西山 芳一	1
文化財ニュース	文化財となった土木関連建造物等一覧	北河 大次郎・阿部 貴弘	3
地域のニュース	「余部鉄橋の保存と再出発に向けた提言」まとまる	山田 圭二郎	4
	宇和島市遊子水荷浦における“生業の景”の保全に向けた取り組みについて	伊豫屋 紀子	5
学会の動き	第27回 土木史研究発表会の開催のお知らせ	土木史研究委員会	6
土木史関係図書		横松 宗治	8

フォーラム

土木遺産と写真

土木写真家 西山 芳一



きっかけはダム

現在、私が土木やその遺産を撮影しているきっかけはまさにダムにある。小学生時代、親とともに訪れた小河内ダム。堤頂からのぞき見る高さとそのボリュームに対する驚きが深層的に種を植え付けたようだ。そして、30年の時を経てようやく発芽することとなる。

撮影のほとんどがスタジオ、たとえ外に出たとしてもモデルを連れての都内ロケ、という生活を送っていた広告写真家時代はひまさえあれば四輪駆動車で山々をめぐり、「自然を被写体にした作品づくり」の名目で日々の喧騒から逃れていたが、それはテーマを追っていたわけではなくテーマ探しの旅だった。そんな折、林道を走っているとみるみる視界が開けてくる。車を止め、眼下を見やるとそこには地図には表記されていない茶褐色の平たい大地が広がっていた。目を凝らすとなにやらやけにタイヤの大きなトラックが何台も何台も茶色い砂煙をあげながら縦横無人に駆け回っているではないか。そう、巨大ロックフィルダムの建設現場に遭遇してしまったのだ。屋外スタジアムの最上部から観る初めてのサッカー試合にも似た驚きと興奮は、一枚も撮影せずに日が暮れてしまうまで数時間じっとそこで眺めさせるに十分であった。いつかダム建設現場の中に入って撮ってやるぞ。と、ここで生涯の作品テーマが決定したのだった。

「求めよ、さらば与えられん」1年後には「日経



東北には珍しい昭和8年竣工の玉石張りコンクリートダム。堤高18mと小さくはあれ、個性と輝きをいかんなく発揮している。2~3年に一度は必ず会いに行くような大好きなダムのひとつである。青下第三ダム(宮城県仙台市青葉区)

「コンストラクション」で創刊準備号からの撮影依頼が舞い込むこととなり、ダムに限らず日本全国のビッグな土木プロジェクトの現場に入って撮影することになる。

毎週のように各地の現場を車で訪ねるのだが、行き帰りを走っているだけではもったいない。何か撮らねば。そうだ、三千基在るといわれるダムをすべて撮ってやろうと水系から川筋をたどって順番に撮影していった。しかし、ピークである高度成長期に竣工したダムはほとんど形に変化がなく、仕上げの精緻さも少ない、ちょうど汚れの目立つ経年変化の

時期にあたる、などの理由で数十基撮ったころにはすっかり飽きてしまった。そこで、古いダムこそ美しいのではと思い、昭和10年以前に竣工したコンクリートダムを「ダム年鑑」(ダム協会)から抽出すると150基ほどあった。2年ほどでほぼ撮影をクリアし、写真展を開く。それを見た写真家三沢博昭氏からの誘いで「建設業界」(土工協)での撮影を引き継ぐこととなる。かくしてダムだけでなく各種の土木遺産のデヴューとなる。

「時」と「水」

当初は「ただ切りの良いところだ」と思い、昭和10年で区切ったのだが、2.26事件の前年のこの年にはかなり軍事色が強まり、装飾や表現に乏しく仕上げの精緻さにも欠けるダムばかりになる。白水ダム他2~3基のダムを除いて、魅力的なコンクリートダムは最初の明治33年(布引ダム)からの35年間に竣工しているので、この区切り方は正解だったようだ。

ダムに限らず土木構造物にとって「水」というものは人間と等しく大事な要素である。土木写真家にとっても同様で、被写体としての構造物を生かすも殺すも「水」の表現にかかっている。光と水とで土木構造物を表現しているといっても過言ではない。技術的な一端ではあるが流れていればシャッタースピードで加減し、止まっていれば恰好の鏡にもなるのだ。そして苔などの付着や目地から生える植物、侵食、凍結融解、石灰分が溶けだす白華、などと「水」の存在は構造物自体の経年変化を速める要因であり、そのものの生きた証としての「時」を表現する大事な要素となる。

まさに写真は数千分の一秒から百数十年までというさまざまな「時」と、形の千変万化する「水」とをもって、写真という平面の中での命を土木構造物に与えているようなものである。

遺産の評価

昨今、各地で世界遺産への認定や応募の話題が盛んであるが、土木遺産もようやく文化庁や学会が評価し選定するようになってきて価値観が芽生えてきたのは喜ばしいことである。しかし、登録文化財への認定であれ選奨であれ、学術的な見地からの方向性が強すぎると感じているのは私だけだろうか。

さまざまな経年変化や水・緑などの脇役による演出など、単に見た目に「素晴らしい」そして「美しい」ということも、評価軸として加えて欲しいものである。

誰のための土木か、そして誰のための土木遺産かを考えれば答えは出そうだが、いやいや、役割として土木写真家ももっともっと一般庶民に土木のそして土木遺産の存在を明示し表現しなければいけない。どうやらそちらが先そうですね。



この流れの美しさは再現できるだろうか。
解体され下流部に改築が決まった神戸堰 (島根県出雲市)



「幻」ということで水没時に訪れた人のリピートか。
見学者が増えてきた旧土幌線タウシュベツ川橋梁
(北海道土幌町)

西山 芳一(にしやま ほういち)

75年 東京造形大学デザイン学部写真学科卒。

博報堂、東急エージェンシーを経てフリーに。

88年 日経コンストラクション創刊準備号で初めて土木を撮影。

93年 土木写真家として土木を中心の撮影に移行、現在に至る。

92年 日経B P最優秀写真賞。

02年 写真集「タウシュベツ」(講談社)出版。

03年 同写真集 土木学会出版文化賞 受賞。

05年 写真集「トンネル 地中の星にエールを！」

((社)日本建設機械化協会・施工技術総合研究所)出版。

07年同写真集 土木学会出版文化賞 受賞(2度目)。

機関誌「建設業界」等に多数連載。「土木を撮る会」事務局。

文化財ニュース

文化財となった土木関連建造物等一覧 (1/2)

重要文化財 平成 19 年 4 月答申分				
所在地		名称	建設年代	特徴等
東京都	中央区 江東区	清洲橋	S3	三径間自碇式補剛吊橋で、放物線状の吊鎖と主桁等よりなる洗練された造形により、内務省復興局が探求した力学的合理性に基づく近代的橋梁美を実現すると共に、近代東京の震災復興を象徴した土木構造物。
		永代橋	T15	三径間カンチレバー式タイドアーチ橋で、放物線状の大規模ソリッドリブアーチを中心とする荘重な造形により、近代的橋梁美を実現している。建設当時、わが国最大支間を実現した鋼アーチ橋であり、大規模構造物建設の技術的達成度を示す遺構として貴重。
	中央区	勝鬨橋	S15	海運と陸運の共栄を意図した特殊な構造形式で、国内唯一のシカゴ型二葉式跳開橋として貴重。また、国内最大の可動支間を有する大規模かつ技術的完成度の高い構造物であり、近代可動橋の一つの技術的到達点を示す。
鳥取県	鳥取市	旧美敷水源地道施設 貯水池堰堤、美敷川上流量水 堰、通り容量水堰、一～五号濾 過池、接合井、量水器室、土地	T4 / T11 改修	山陰地方で最初に建設された近代水道施設の代表的遺構であり、貯水池のみならず、量水施設や濾過施設なども良好な状態で保存されていることから、近代水道施設の構成を知る上で貴重。
登録有形文化財 平成 18 年 12 月答申分				
所在地		名称	建設年代	特徴等
大阪府	大阪市	通天閣	S31	高さ 103m で、四角形から八角形へと平面形状が変化する塔身に、独特の形状の展望台を戴く。
広島県	東広島市	深山変電所本館 (旧椋梨川発電所本館)	T7	壁を掘出し仕上げの花崗岩布積みとする重厚な外観の建造物
登録有形文化財 平成 19 年 3 月答申分				
所在地		名称	建設年代	特徴等
群馬県	前橋市	上毛電気鉄道大胡駅駅舎	S3	近代群馬の基幹産業である養蚕・製糸業を支えた上毛電気鉄道の施設。 駅舎は木造平屋建で下見板張りと漆喰塗の外観。電車庫は木造、矩形平面とし、電車庫として現存初期の遺構。変電所は外部モルタル塗り仕上げで、柱形を現し、蛇腹を巡らす端正なつくり。 また、椅子形の外観が特徴的な受電鉄塔、避雷器への分岐線を支持する避雷鉄塔の他、中継鉄塔、引留鉄塔といった一連の施設が良好に保存され、現在も使用されている。
		上毛電気鉄道大胡駅電車庫	S3	
		上毛電気鉄道大胡駅変電所	S3 / S18 増築	
		上毛電気鉄道大胡駅受電鉄塔	S3	
		上毛電気鉄道大胡駅避雷鉄塔	S3	
		上毛電気鉄道大胡駅中継鉄塔	S3	
		上毛電気鉄道大胡駅引留鉄塔	S3	
上毛電気鉄道荒砥川橋梁	M36・ S3 / S22 改造	荒砥川に架かる、M 期の輸入鋳鉄を用いた現役橋梁		
千葉県	千葉市	千葉県水道局千葉高架水槽	S12	正一三角形平面で頂部に水槽を戴く、地域のランドマーク
愛知県	名古屋市	オリエンタルビル屋上観覧車	S31	デパートの屋上に設置された鉄骨造観覧車。現存最古級。
奈良県	生駒郡 三郷町・ 平群町	開運橋	S6	上路式カンチレバー橋として最初期の遺構で、トレスル形式の橋梁としても貴重。参道として利用され、信貴山参詣の近代化を表す。
福岡県	糟屋郡 志免町	旧志免鋳業所竪坑槽	S18	高さ 49m の大規模な RC 造竪坑槽。地域のシンボルとして親しまれている。
鹿児島県	川辺郡 知覧町	旧陸軍知覧飛行場防火水槽	S16 / H 16 移設	すり鉢状の円形防火水槽。射撃訓練用実弾を保管したとされる RC 造弾薬庫。着陸訓練用の施設の一部である RC 造鎮礎が残る。
		旧陸軍知覧飛行場弾薬庫	S16	
		旧陸軍知覧飛行場 着陸訓練施設鎮礎	S16	
沖縄県	宮古島市	大野越排水溝	S9	開墾基盤施設で、宮古島における最初期の RC 造構造物
	島尻郡 北大東村	旧東洋製糖下阪浴場風呂場	T後期	東洋製糖会社が建設した浴場施設。
		旧東洋製糖下阪浴場水取場	T後期	下阪浴場は、石造の風呂場と、傾斜地にモルタル塗の床を設けて雨水を集水した水取場。社員浴場は、RC 造の風呂場と貯水タンクからなる。水源に乏しい離島における、特色ある水利用の仕組みを今に伝える。
		旧東洋製糖社員浴場風呂場	S初期	
		旧東洋製糖社員浴場貯水タンク	S初期	

文化財となった土木関連建造物等一覧 (2 / 2)

登録有形文化財 H19年6月答申分				
所在地	名称	建設年代	特徴等	
群馬県	桐生市	上毛電気鉄道渡良瀬川橋梁	S3	8連の60ft 鈮桁からなる単線仕様の上路式鉄道橋。開通当初の姿を今に伝える。
千葉県	館山市	巴橋	M39	関東北部に残る数少ないM期建設の石造アーチ橋の一つ。
岐阜県	各務原市	上の島神明神社太鼓橋	S11	アーチを大きく反り上げた、躍動的な造形の石造太鼓橋。
愛知県	豊田市	名鉄三河線旧西金駅駅舎	S5	名鉄三河線の旧終着駅の施設。駅舎の外装は下見板張。簡素なつくりのプラットホームは、駅舎とともに田園風景に馴染む鉄道景観をつくりだす。
		名鉄三河線旧西金駅プラットホーム	S初期	
		名鉄三河線旧三河広瀬駅駅舎	S2	
		名鉄三河線旧三河広瀬駅プラットホーム	S2	
島根県	松江市	美保関灯台	M31	半円形の付属舎をもつ円形灯台で、砂岩の布積で築く。総高は14m。日本海海運の振興に寄与し、地域のシンボルとして親しまれている。
		美保関灯台石堀	M31	
		美保関灯台旧吏員退息所主屋 (美保関灯台ビュッフェ食堂)	M31 / S47 改修	
		美保関灯台旧吏員退息所倉庫 (美保関灯台ビュッフェ厨房)	M31 / S47 改修	
		美保関灯台旧吏員退息所便所 (美保関灯台ビュッフェ便所)	M31 / S47 改修	
		美保関灯台旧吏員退息所石堀 (美保関灯台ビュッフェ石堀)	M31	
福岡県	田川市	旧三井田川鈮業所伊田堅坑櫓	M42	石炭記念公園内に残る旧炭鈮施設。堅坑櫓は筑豊に残る鋼製櫓としては唯一のもの。第一煙突、第二煙突は高さ45mの明治最大級規模の煉瓦煙突で、櫓と共に「炭鈮節」に謳われることで知られる。
		旧三井田川鈮業所伊田堅坑第一煙突	M41	
		旧三井田川鈮業所伊田堅坑第二煙突	M41	
大分県	別府市	別府タワー	S32 / H16 改修	SRC造4階建の建屋の上に高さ74mの鉄塔を組み、総高90mとする。展望室のカーテンウォールには俯瞰を考慮して傾斜を付ける。

地域のニュース

「余部鉄橋の保存と再出発に向けた提言」まとまる

(株)オリエンタルコンサルタンツ 山田 圭二郎

山陰本線・余部鉄橋（兵庫県香美町香住区余部）の架け替えの話題は、本誌でも何度か取り上げられ、読者の関心も高いであろう。本年3月13日、同橋の架け替え後の利活用に係る基本理念・基本方針を取りまとめた「余部鉄橋の保存と再出発に向けた提言」が兵庫県知事に提出された。

同提言は、学識者、県及び地元自治体、鉄道事業者、地元住民等からなる「余部鉄橋利活用検討会」における1年間（計5回）の議論を経て取りまとめられたものである。同提言は兵庫県のHPに公開されているので、詳細は以下でご確認いただきたい。

(http://web.pref.hyogo.jp/wd05/wd05_000000060.html)

提言では、余部鉄橋を通した土木遺産の保存・利活用に関する多様な議論の展開や近代化遺産に係る意識（価値観）の醸成を求め、余部鉄橋を巡るこれからの議論や取り組み自体がまた時間を経て振り返り評価されることを求めている。検討会での検討過程を見ると、余部鉄橋に関わった全ての人々の想いを伝えていこうとする姿勢が読み取れる。架け替えを巡る賛否両論、余部鉄橋に対する並々ならぬ愛着を抱きながら、事故の記憶や落下物（モノだけではない...）への日々の不安・恐怖との狭間で揺れる鉄橋下の住民の苦渋を思えば、議論を尽くしてなおこれ

が正しいという結論を今導くことは不可能なのかもしれない。今、求められることは、架け替えを巡る賛否、検討会での議論を含め、余部鉄橋やその風景、橋下での日々の生活に重ねられた正負様々の想い（思い出）をできる限り多く拾い上げ、記録し、伝えていくことではないか。社会資本整備に関わる土木技術者はまず、ずっしりと重いその想いを受け止める責務を負うと思うのだ。

さて、この6月2日（土）・3日（日）には「ひょうごヘリテージまつり in たじま～但馬の近代化遺産を訪ねて～」が開催される等、産業遺産をはじめとする歴史的建物や土木構造物の近代化遺産を巡る周辺の取り組みも活発化している。

余部鉄橋架け替えの工事は8月には本格的に開始される予定だという。鉄橋も周囲の風景も、今あるままの姿を見られるのはもう残り僅かだ。7月7日（土）・8日（日）に開催される第27回土木史研究発表会（近畿大学）に併せて、少し足を延ばしてその目で確かめ考えてみてはどうだろう。-「余部鉄橋」という近代化遺産とは、そして、余部鉄橋とともに愛されてきた風景とは一体何なのか-その問いへの答えはもしかしたら拾い上げた人々の「想い」の中からいつか見つかるのかもしれない。

宇和島市遊子水荷浦における“生業の景”の保全に向けた取り組みについて

(株)オリエンタルコンサルタンツ 伊豫屋 紀子

愛媛県宇和島市西部沿岸三浦半島の北側中央部に位置する遊子(ゆす)地区水荷浦(みずがうら)には、海岸沿いの急峻な斜面に何十段と積まれた石垣によって形づくられた「段畑」(だんばた:宇和島周辺における段々畑の呼称)が残されており、漁港や養殖場と合わせて江戸時代から続く当地の半漁・半農の生活を支える「生業の景」を伝えている。この段畑は、江戸時代に漁村の自給自足のために開墾された畑で、明治以降、生産力向上のために丘陵斜面に石垣が築かれ、昭和30年代までに現在の状態になったと言われている。

この生業の景の保全活動として、平成12年に結成された「段畑を守ろう会」の取り組みが挙げられる(平成19年3月NPO法人取得)。本会は、段畑を核とした海域まで含めた一体的な生業の景を後世に残し引き継ぐという理念の下、石垣の維持管理や休耕地の復旧、ボランティアガイドなどの来訪者への対応の他、段畑で作られた農作物と宇和海で獲れた鮮魚の販売等を行う収穫祭「ふる里だんだんまつり」(4月開催)や竹とロウソクで作った行灯を段畑に置き、夕涼みを楽しむ「段畑ライトアップ」(8月開催)など、地元住民が段畑の魅力に気づく仕掛けづくりを行っている。更には、段畑でのジャガイモオーナー制度やジャガイモ焼酎造りなど、生業の景の根幹である農業が継続して営まれる仕組みづくりにも取り組んでいる。

また、地元の遊子小学校では、学校近辺の段畑において石積みや作物の育成などの体験学習を行っており、この体験を通じて地域を作り上げてきた先祖の思いを学ぶ取り組みを行っている。

このように、地域住民による世代を超えた保全の取り組みが行われている本地域において、平成19年4月、生業が反映された貴重な景観である段畑の重要性を鑑みて適切に保全し、段畑を中心とした本地域の景観を後世へと継承することを目的として、四国初の景観計画となる「宇和島市遊子水荷浦地区景観計画」が策定された。本計画における景観計画区域は、丘陵から漁港区域までを含めた範囲としている。これは、地域景観が段畑～丘陵麓部の集落～宇和島湾(宇和海)までの連続した景観であり、地形に即した土地利用は相互に関連性があるという考えに基づいている。なお、南側の海域の範囲設定は、陸域における主要な視点場である段畑上段の市道か

らの竜王島の眺望を基に設定されている。

さらに、同年5月には国の文化審議会(石澤良昭会長)によって、文化財保護法の改正に伴い設けられた「重要文化的景観」への選定に関する答申が出されるなど、段畑～宇和島湾(宇和海)までの一体的な生業の景の価値が対外的にも評価を受けている。

こうした景観計画の策定・重要文化的景観の選定が、既存の保全活動の発展・継続や、地域の方々の景観保全への参加のきっかけに繋がることを願うとともに、遊子水荷浦地区の取り組みが生業の景の保存を検討している地域の知見となることを期待する。

謝辞: 本記事の執筆・公表にあたり、NPO法人 段畑を守ろう会 副理事長 松田鎮昭氏、宇和島市教育委員会文化課 廣瀬岳志氏、宇和島市津島支所教育課 森田浩二氏にご協力いただきました。心よりお礼申し上げます。



宇和島市遊子水荷浦地区全景



「生業の景」段畑



段畑からの宇和島湾の眺望(右端○:竜王島)

『第27回 土木史研究発表会』開催のお知らせ

1. 主催：土木学会（担当：土木史研究委員会 <http://www.jsce.or.jp/committee/hsce/index.htm>）
2. 期 日：【研究発表会】2007年7月7日（土）・8日（日）
3. 会 場：近畿大学本部キャンパス（東大阪市）
近畿大学HP http://ccpc01.cc.kindai.ac.jp/honbu/side/09_a/09hon.html
交通案内：近鉄大阪線長瀬駅より徒歩10分
4. 参加費：会員・非会員：2,000円、学生会員：1,000円
論文集および講演集販売：合冊（論文集Vol.26+講演集Vol.27）：6,000円
論文集のみ：2,000円 講演集のみ：4,500円 当日会場にて申し受けます。
5. 懇親会：1) 日 時：2006年7月7日（土）17:45～19:00
2) 会 場：近畿大学内食堂「Cafeteria November」
3) 参加費：4,000円程度を予定
4) 参加方法：当日会場にてお申し込み下さい。
6. 宿泊：会場までの交通の便が良いホテルです。ご希望の方は直接ホテルにお申し込みください。
シェラトン都ホテル大阪 <http://www.miyakohotels.ne.jp/Osaka/>
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町6-1-55 TEL(06)6773-1111 FAX(06)6773-3322
公共学校共済組合大阪宿泊所・ホテルアウィーナ大阪 <http://www.awina-osaka.com/>
〒543-0031 大阪市天王寺区石ヶ辻町19番12 TEL(06)6772-1441 FAX(06)6772-1095

◆7月7日（土）（1/2）10:30～15:40

時間	第1会場(21号館422講義室)	第2会場(21号館423講義室)	第3会場(21号館424講義室)
10:30	開会挨拶 土木史研究委員会委員長 小西純一		
10:45	【橋梁Ⅰ】 司会:小林一郎(熊本大学)	【治水】 司会:岡田一天(㈱プランニングネットワーク)	【港湾・都市】 司会:上島顕司(国土技術政策総合研究所)
	1. 江戸の橋年表 松村博((財)阪神高速道路管理技術センター)	11. 野口初太郎技師と大利根用水事業 榎山清人((財)全国建設研修センター)	22. 石狩湾新港をめぐる機能分担について - 社会的視点からの考察 - 神代方雅(㈱クマシロシステム設計)
	2. 東京市施工隅田川左岸地域震災復興橋梁の 橋種・型式選定の考え方 白井芳樹(㈱オオバ)	12. 明治期における円山川下流部の治水問題と 若年期の沖野忠雄 岩屋隆夫(東京都土木技術センター)	23. 1785年のダンケルク港整備計画における土木 技術師の提案について 根岸美幸(京都大学)
	3. 兵庫県の近代化を支えた橋梁 村瀬佐大美((財)海洋架橋・橋梁調査会近畿支部)	13. 南山城・木津川支川における天井川の形成過程と 治水意識 安東尚美(NPO法人流域調整室)	24. 海からみた三角の都市形成に関する一考察 原田茉林(熊本大学)
	4. 高度経済成長期に建設された橋梁の系譜と その背景 上田嘉通(株式会社日建設シビル)	14. 富士川水系御勅使川における歴史的砂防施設 小川紀一郎(アジア航測株式会社)	25. 都市計画法制定後から終戦時まで(1920年代～ 1945年)の福岡都市計画に関する研究 - 大福岡市論に着目して - 吉野弘明(九州大学)
12:25			
14:00	【橋梁Ⅱ】 司会:佐々木 葉(早稲田大学)	【上水・衛生】 司会:藤井三樹夫(㈱水環境研究所)	【都市・景観】 司会:山田圭二郎(㈱オリエンタルコンサルタンツ)
	5. ドゥ・ラ・ノエによって建設されたブルターニュ地方の 鉄道橋梁群に関する研究 本多泰寛(熊本大学)	15. 中国・西安の暗渠都市給水施設の現地調査 神吉和夫(神戸大学)	26. 昭和初期に竣工した京都市児童公園の空間構造 に関する研究 藪内慎太郎(㈱ミサワホーム近畿)
	6. 20世紀型チェーン吊橋の実態とその形式選定に 関する考察 町田英治(岡山大学)	16. 江戸の上水についての補論 藤尾直史(東京大学)	27. 後楽園の成立とその戦略 - <庭>空間としての水田 小野芳朗(岡山大学)
	7. 極東アジアの木造屋根構造における「トラス度」の 数値的推定 小川直紀(岡山大学)	17. 明治期・北陸の用水の合口化 安達寛(㈱アステック)	28. 忌避施設の再編過程と都市開発に与えた影響に 関する一考察 - 岐阜県における各務原競馬場を対象として - 近藤紀章(滋賀県大学)
15:40		18. 感染症に関係した世界三大土木事業 後藤恵之輔(長崎大学)	29. 社会資本を鑑みる - 用・強・美を再認識して - 吉原不二枝(環境経済研究所)

◆ 7月7日(土)(2/2) 15:55~19:00

時間	第1会場(21号館422講義室)	第2会場(21号館423講義室)	第3会場(21号館424講義室)
14:40	【橋梁】 司会:白井芳樹(㈱オオバ) 8. ロペール・マイヤールの構造デザインと設計思想(その3) - 3ヒンジアーチと補剛アーチの発展に関する一考察 - 鈴木 圭(㈱アパソシエイツ)	【電力】 司会:神吉和夫(神戸大学) 19. 電力土木の歴史 - 第2編 電力土木人物史(その20 - 完) 稲松敏夫(稲松技術センター)	[河川・港湾施設] 司会:島崎武雄(株式会社開発研究所) 30. 吉井水門 - 現存する日本最古の運河閘門 馬場俊介(岡山大学)
	9. 我が国における明治期の近代的木造吊橋の展開(その4) - 天竜川の南原橋と木曾川及び天竜川水系の吊橋の変遷の考察 - 山根巖(中部橋梁調査研究所)	20. 千歳川における電力開発とその技術に関する研究 今尚之(北海道教育大学)	31. 近代港湾建設にみる材料の変換と石積み利用の可能性について 永村景子(熊本大学)
	10. 我が国における明治期の近代的木造吊橋の展開(その5) - 富士川及び安倍川水系での吊橋の変遷 - 山根巖(中部橋梁調査研究所)	21. “発電ダム”からみた「第一次発電水力調査」(明治43~大正2年度)の意義に関する考察 - 3基の革新ダム(大井・小屋平・塚原ダム)の発電方式の推移に焦点をあてて - 堀川洋子(日本大学)	32. 「州崎波除石垣(跡)」考察(第1報) 野村和正(㈱創建東京本社)
17:00	懇親会 近畿大学内食堂「Cafeteria November」にて開催 会費 4000円を予定 当日会場受付にてお申込ください。		
18:30			

◆ 7月8日(土) 10:00~16:15

時間	第1会場(21号館422講義室)	第2会場(21号館423講義室)	第3会場(21号館424講義室)
10:00	【石垣・構造】 司会:関文夫(大成建設株式会社) 33. 個別要素法による城郭石垣の安定性解析 笠 博義(㈱間組)	【土木史一般】 司会:松浦茂樹(東洋大学) 42. 定法書の研究 - 系統的分類について - 篠田哲昭(北海道環境福祉専門学校)	
	34. 城郭石垣の盛土構造と動的安定性 西形達明(関西大学)	43. 創立期の五高・熊本高等工業学校における技術者教育に関する研究 田中尚人(熊本大学)	
11:15	35. 城郭石垣の修復における断面形状の適用に関する考察 森本浩行(京都市立伏見工業高等学校)	44. 四国に伝わる災害の教訓に関する考察 山田基(財)日本システム開発研究所)	
11:40			
11:30	【遺産】 司会:伊東 孝(日本大学) 36. 品川台場における西洋築城技術の影響 浅川道夫(拓殖大学)	【鉄道】 司会:北河次次郎(文化庁) 45. 明治以降の土木および鉄道に関する省庁の変遷と財政史 畑岡 寛(九州共立大学)	
	37. 近代日本における西洋からの移植技術の伝播に関する史的考察 - 旧富岡製紙場が果たした役割の明確化 - 西尾敏和(前橋工科大学)	46. 京張鐵路におけるトンネルの沿革と現状 小野田滋(鉄道総合技術研究所)	
	38. 近世以前の日本土木遺産の総合調査(第一報) 劉瑜(岡山大学)	47. 国鉄改革における建設部門地方機関の承継に関する実証的研究 高津俊司(独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構)	
12:45			
14:30	【遺産】 司会:原口征人(社)北海道開発技術センター) 39. 土木遺産の活用方法に関する基礎的研究 - とちぎの土木遺産を対象として - 稲村晋佑(足利工業大学)	【都市・交通】 司会:昌子住江(関東学院大学) 48. 「宋本清明上河図」における土木景観の分析 横松宗治(㈱日本ランドデザイン)	
	40. 神奈川お台場の保全へ向けての基礎的研究 鈴木伸治(横浜市立大学)	49. 鉄道側から見た関東大震災復興事業に関する研究 大沢昌玄(日本大学)	
	41. 兵庫県における近代化遺産としての歴史的砂防施設 小川紀一郎(アジア航測株式会社)	50. 明治時代における長野県の道路行政について(その2) 山浦直人(長野県土木部)	
16:10		51. 利根川における舟運と地域社会との関連性 古屋秀樹(東洋大学)	
16:15	総括および閉会挨拶 土木史研究編集小委員会委員長 松村 博		

書名	著者・編者	発行所・発行日	定価(税込)
建土築木 1 構築物の風景／2川のある風景	内藤廣著	鹿島出版会・2006年12月	各¥1,890-
水と緑の交響詩 創成する精神～環境工学者・丹保憲仁	高崎哲郎著	鹿島出版会・2006年12月	¥2,310-
国鉄歴史事典 日本国有鉄道百年史 別巻 復刻版	日本国有鉄道編	成山堂書店・2006年12月	¥10,500-
景観用語事典(増補改訂版)	篠原修編	彰国社・2007年3月	¥3,780-
景観法制定と文化財保護法改正に合わせ改定された。			
歴史文化ライブラリー222 「鉄道忌避伝説の謎ー汽車が来た町、来なかった町ー」	青木栄一著	吉川弘文館・2006年12月	¥1,785-
伝説の“鉄道忌避”の実態を豊富な資料で検証する。明治10、20年代の鉄道建設高揚期には、むしろ誘致が一般的であった。建設の技術、経済、時に国防の側面が議論され、“火の粉が飛ぶ”式の感覚的な反対論は後の伝説にすぎないと述べる。			
土木と景観 風景のためのデザインとマネジメント	田中尚人・柴田久編著 藤井聡・秀島栄三・横松宗太著	学芸出版社・2007年4月	¥2,310-
土木各分野に係わる専門家5人による地域景観をいかにマネジメントするか？に関する論考。地域資産としての風景が、輪中、郡上八幡、長良川などのコミュニティの生活・生産の仕組みの中で維持されてきたことは、今後の景観マネジメントに大きな示唆を与える。			
[論考]江戸の橋 制度と技術の歴史的変遷	松村博著	鹿島出版会・2007年7月予定	¥3,990- (予価)
新版 日本港湾史	日本港湾協会編	成山堂書店・2007年7月予定	¥37,800- (予価)

(日本ランドデザイン 横松 宗治)

編集後記

第27回土木史研究発表会開催直前の発行となりご迷惑をおかけしました。今回のフォーラムでは平成18年度土木学会出版文化賞を受賞された土木写真家・西山芳一氏に、写真を通じた土木遺産との関わりについて語って頂きました。写真の中の「数千分の一秒から百数十年まで」の様々な「時」と共に矛盾なく、凛と美しくそこにある土木構造物。氏の写真は「これぞ土木史！」という妙を、言葉を超えて表現しているようでした。いかがだったでしょうか。

さて、次号から新体制でフォーラムをお届けすることになります。更に興味深く、より身近なフォーラムを目指し取り組みられる新体制へ、地域ニュースや関連図書の情報提供等、今後ともご協力をよろしくお願い致します。(伊豫屋 紀子)

土木史フォーラム No. 33

監修：土木学会土木史研究委員会

発行：土木史フォーラム小委員会

代表者 五十畑 弘(日本大学)

事務局：(株)オリエンタルコンサルタンツ 山田・伊豫屋

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町16-28 グラスシティ渋谷

TEL.03-6311-7856(直通) FAX.03-6311-8025

Email : yamada-ki@oriconsul.co.jp

http://www.jsce.or.jp/committee/hsce/forum/

印刷：(株)青孔社

CONTENTS

-FORUM

・ Civil Engineering Heritage and Photography NISIYAMA Houichi 1

-Civil Engineering Works on Latest Heritage Registration List KITAGAWA Daijiro
and ABE Takahiro 3

-LOCAL NEWS

・ About the Proposal concerning the Preservation and Reutilization of Amarube Iron Bridge in Hyogo Pref. YAMADA Keijiro 4

・ About the Various Activities for Preserving "Cultural Landscape" in Yusu-Mizugaura Area, Uwajima City IYOYA Noriko 5

-REPORT FROM CHSCE(Committee on Historical Studies in Civil Engineering)

・ Program of the 27th Annual Meeting of CHSCE (CHSCE) 6

-BOOK GUIDE YOKOMATSU Muneharu 8